

# 2023年3月期 第2四半期 決算説明会

2022年11月22日



〒 5 9 8 5

# AGENDA



**I. 会社概要**

**II. 2023年3月期第2四半期 決算概要**

**III. 2023年3月期 業績見通し**

**IV. 中長期の成長戦略**

# 会社概要

# Purpose 技術をより良い世界のために

## 次世代事業への挑戦

将来

第二次成長期  
(電子情報通信分野への参入)

現ポジション

第一次成長期  
(自動車関連事業の確立)

創業期

1943年

### 創業

飛行機エンジン用  
弁ばねの開発製造を目的として、  
空爆のない京都で創業

### ばね製造

戦中に潜水艦でドイツから運ばれ  
てきて軍の小倉工場にあったもの  
を譲り受けて生産



当時のコイルマシン  
(京都本社写真)

妥協は許さない  
いのちを乗せるものづくり



エンジン部品



ミッション部品



安全部品

需要は  
今後も拡大

独自の微細加工技術で  
世界のビックデータを管理する

ローラ



HDDサスペンション



光コネクタ



モータ・電気部品  
(EV製品)



環境・エネルギー新素材  
「竹炭」



医療・介護



**社名** : サンコール株式会社 SUNCALL CORPORATION

**設立** : 1943年6月

**資本金** : 48億8百万円

**本社** : 京都市右京区梅津西浦町14番地

**証券取引所** : 東京証券取引所 プライム市場

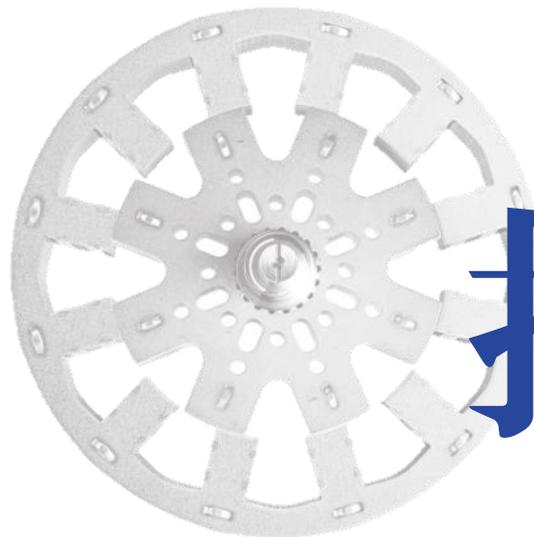
**従業員数** : 2,241名（連結） 646名（単体）

**主要株主** : 日本マスタートラスト信託銀行(株)  
(退職給付信託口・(株)神戸製鋼所口) 16.7%  
伊藤忠丸紅鉄鋼(株) 12.6%  
伊藤忠商事(株) 9.8%

(2022年9月末時点)

技術をより良い世界のために

# 技翔創変



サンコールは『技翔創変』という経営理念の基で企業の飛躍に邁進しております。

## 技翔

技術を飛翔させていくこと

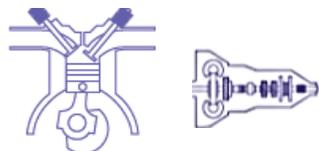
特異な技術無くして、SUNCALLは存在し得ない

## 創変

変化を自分で作りだしていくこと

世の中の変化をリードし、創造していく

# 材料から加工まで一貫生産



エンジン・ミッション部品

## ① 弁ばね



国内シェアトップクラス。材料から加工まで一貫生産により、高品質、1億回の伸縮にも耐えられる高耐久性を実現。

## ② リングギア・ドライブプレート



国内シェアトップクラス。独自の金属加工技術で高精度を実現。

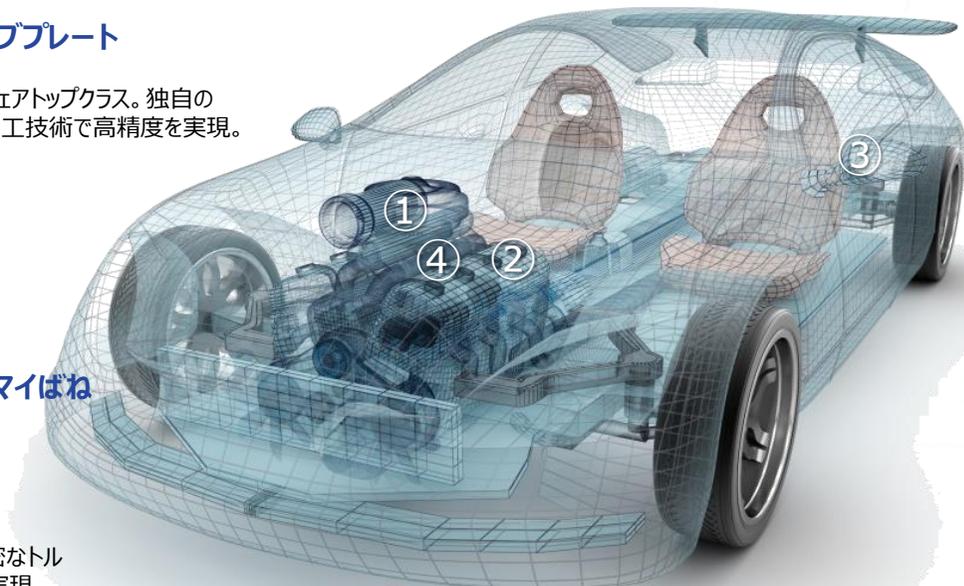
## 安全部品



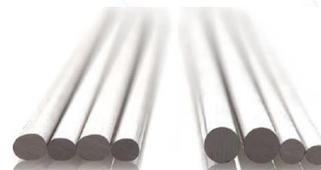
## ③ シートベルト用ゼンマイばね



材料から製造するため、精密なトルクの調節が行え、快適性を実現。

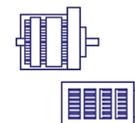


## 材料関連事業・弁ばね用鋼線 精密異形線



一貫生産を支える当社の芯。数々の独自技術に展開するコア事業。安心・安全・高品質で新規領域へ

## モーター・電気部品



## ④ バスバー

ユニットの形状に合わせて個別に設計。これからの配線の主役。



## ④ シェントnバスバー

電流を流しながら、電圧を測定できるという機能を盛り込んだ、バスバー一体型センサー。リチウムイオン電池のような大電流にも対応。



## ④ フューズセンサー

過電流を検知すると通電部を破壊瞬断する次世代センサー



## ④ モーターコア・ステーターコア

モーターの芯を構成する部品。当社は自動で一貫生産し、高い生産性を実現。



# データ社会を支えるキーデバイス

プリンター



プリンター関連製品

長尺・軽量・高精度シャフト  
供給によりW/Wトップシェア

ローラー



トルクリミッター  
スプリングクラッチ



HDD用サスペンション

HDD



HDD磁気ヘッドを、数十ナノメートル単位で位置決めする極限レベルの精度要求に対応

データセンター

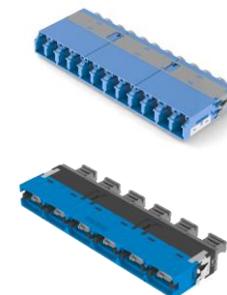


通信関連製品

光コネクタ



光アダプタ



## 国内14拠点

本社	京都府京都市
<b>生産拠点</b>	
本社工場	京都府京都市
京都南工場	京都府京都市
豊田工場	愛知県豊田市
広瀬工場	愛知県豊田市
<b>国内子会社</b>	
サンコールエンジニアリング株式会社	山梨県南アルプス市
サンコール菊池株式会社	熊本県菊池市
<b>営業拠点</b>	
東京支店	神奈川県横浜市
名古屋支店	愛知県豊田市
西日本支店	京都府京都市
上田営業所	長野県上田市
北関東営業所	栃木県宇都宮市
浜松営業所	静岡県浜松市
近畿営業所	京都府京都市
西日本営業所	広島県広島市

## 海外7カ国15拠点

国	地域	出資比率	生産品目
アメリカ	インディアナ州	100%	弁ばね、リングギアほか
	サウスカロライナ州	100%	光通信部品（販売拠点）
	テキサス州	100%	
メキシコ	アグアスカリエンテス州	100%	弁ばね用材料、リングギア
	アグアスカリエンテス州	50%	シートベルト用ぜんまいばね
中国	広州	100%	弁ばね、リングギアほか
	広州	100%	弁ばね用材料（販売拠点）
	佛山	25%	弁ばね用材料
	天津	100%	リングギア
	深圳	100%	プリンター用ローラー、光通信部品ほか
	香港	100%	
タイ	チョンブリ県	100%	弁ばね、リングギア シートベルト用ぜんまいばね プリンター用ローラーほか
ベトナム	ハノイ	100%	プリンター用ローラーほか
韓国	梁山	49%	シートベルト用ぜんまいばね材料
フィリピン	マニラ	100%	HDD用サスペンション（駐在員事務所）

### 2022年8月より株式会社アイメスと資本業務提携いたしました

社名	株式会社アイメス	本社所在地	神奈川県藤沢市
出資比率	41.5%	海外拠点	フィリピン、タイ



# 2023年3月期第2四半期 決算概要

## 電子情報通信分野の伸長により前年同期比増収

**売上高** **26,813百万円**  
(前年同期比+3,311百万円/ +14.1% / 内為替影響1,911百万円)

**営業利益** **471百万円**  
(前年同期比▲5百万円 / ▲1.1%)

### 自動車分野

売上前年同期比+2.6%

- 材料関連  
メキシコ子会社の需要回復により前年同期比増加
- 自動車関連  
バスバー、LED関連製品等一部製品が大きく増加したが、中国のロックダウンや半導体不足の影響が長引き全体では伸び悩み

### 電子情報通信分野

売上前年同期比+39.7%

- HDD用サスペンション  
データセンター向け投資増に伴い前年同期比で増加  
9月以降はデータセンター向け投資抑制の影響が発生
- プリンター関連  
リモートワーク移行による家庭用特需増加のあった前年同期比で減少したが、需要は好調
- 通信関連  
北米・アジア市場の需要回復や新規拡販により増収

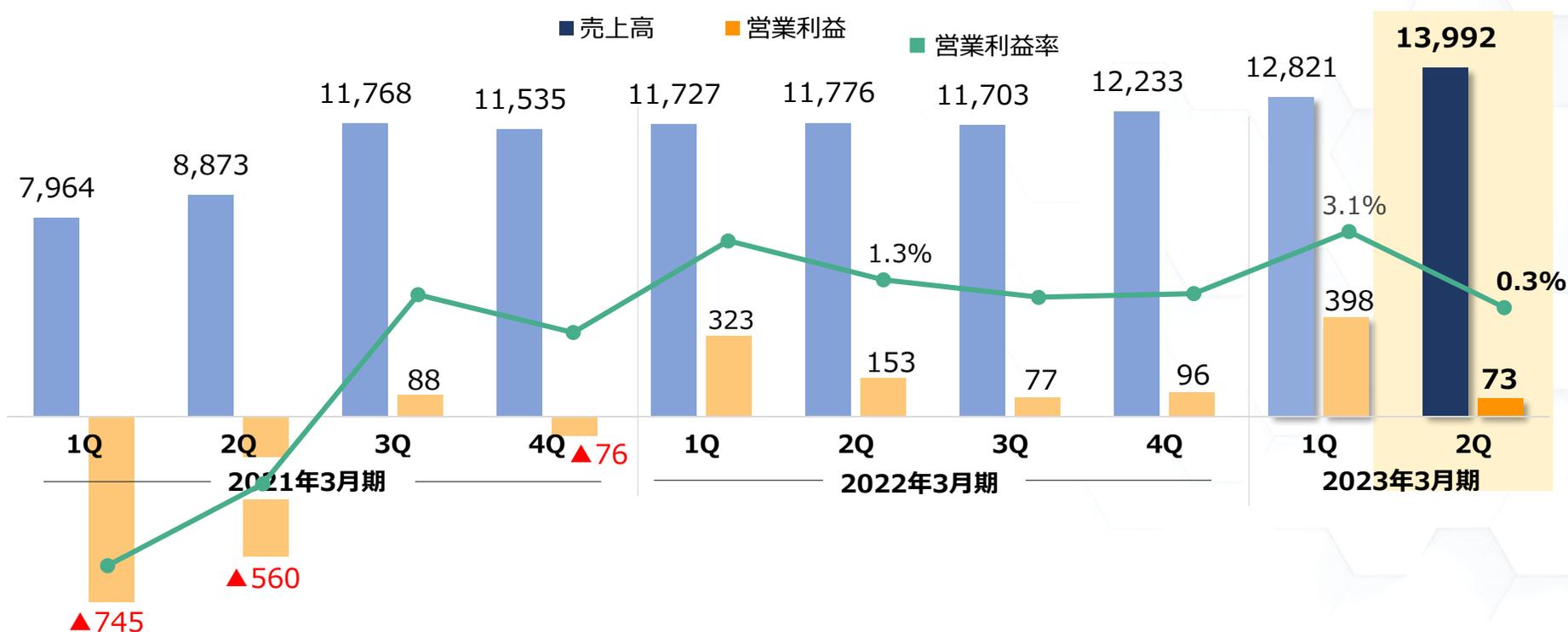
◆ 売上高	電子情報通信分野が前年同期比で伸長 半導体不足および自動車生産の減産影響を受け、自動車分野の回復は停滞
◆ 営業利益	増収及び円安の影響があったものの鋼材価格高騰やエネルギー・輸送コストアップの影響により 前年同期比で▲1.1%減
◆ 経常利益	為替レートが円安方向に推移したことによる為替差益の増加（前年同期比+219百万円）

単位：百万円	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期		
	実績	実績	前年同期比	
売上高	23,502	<b>26,813</b>	+3,311	+14.1%
営業利益	476	<b>471</b>	▲5	▲1.1%
経常利益	650	<b>882</b>	+231	+35.6%
当期純利益	454	<b>572</b>	+117	+25.7%
一株当たり利益	14.36	<b>19.05</b>		
平均為替レート	109.8円/ドル	<b>134.0円/ドル</b>		
	130.9円/1-円	<b>138.7円/1-円</b>		

## ◆ 対1Q比較

◆ 売上高	鋼材価格高騰や円安による売上の増加
◆ 営業利益	自動車分野 : 鋼材値上げ分売価転嫁遅れ HDD用サスペンション : 新機種立ち上げロス、減価償却費増加

### 四半期別業績の推移



◆ 自動車分野	材料関連	メキシコ子会社の需要回復により前年同期比増加
	自動車関連	バスバーやLED関連製品等一部の製品で大きく増加したが中国のロックダウン(都市封鎖)や自動車減産の影響を受け全体としては伸び悩み
◆ 電子情報通信分野	HDD用サスペンション	データセンター向け投資増に伴い前年同期比で増加するが、9月以降は各国の金融引き締めや景気後退の懸念によりデータセンター向け投資抑制の影響が発生
	プリンター関連	リモートワークへの移行による家庭用(コンシューマ向け)需要増加のあった前年同期比で減少
	通信関連	主な市場である北米・アジアの需要回復や新規拡販により前年同期比増加

単位：百万円	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期		
	実績	実績	前年同期比	
売上高	23,502	<b>26,813</b>	+3,311	+14.1%
自動車分野	15,646	<b>16,053</b>	+407	+2.6%
材料関連	3,409	<b>3,506</b>	+97	+2.8%
自動車関連	12,237	<b>12,547</b>	+310	+2.5%
電子情報通信分野	7,462	<b>10,421</b>	+2,959	+39.7%
HDD用サスペンション	4,937	<b>7,808</b>	+2,871	+58.2%
プリンター関連	1,974	<b>1,852</b>	▲122	▲6.2%
通信関連	550	<b>760</b>	+210	+38.2%
その他	393	<b>338</b>	▲55	▲14.1%

# 2023年3月期 第2四半期 連結貸借対照表

◆固定資産増加	積極的な設備投資による有形固定資産増加+1,059百万円 資本業務提携による関係会社株式+1,719百万円
◆流動負債増加	買掛金+1,402百万円、短期借入金+751百万円、未払金+778百万円
◆純資産増加	当期純利益+572百万円、配当金▲334百万円 その他有価証券評価差額▲431百万円、為替換算調整勘定+1,644百万円

単位：百万円	2022年3月期末		2023年3月期第2四半期末	
	実績		実績	前期末比増減
流動資産	28,328		30,462	+2,134
現預金	7,510		6,947	▲563
売上債権	11,076		12,378	+1,302
棚卸資産	8,463		9,984	+1,521
固定資産	29,604		31,759	+2,155
<b>総資産</b>	<b>57,932</b>		<b>62,222</b>	<b>+4,289</b>
<b>負債合計</b>	<b>20,750</b>		<b>23,603</b>	<b>+2,853</b>
流動負債	17,471		20,420	+2,948
有利子負債	6,031		6,689	+657
固定負債	3,278		3,183	▲95
有利子負債	1,186		1,113	▲72
<b>純資産合計</b>	<b>37,182</b>		<b>38,618</b>	<b>+1,436</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>57,932</b>		<b>62,222</b>	<b>+4,289</b>

# 2023年3月期 第2四半期 キャッシュフローの状況

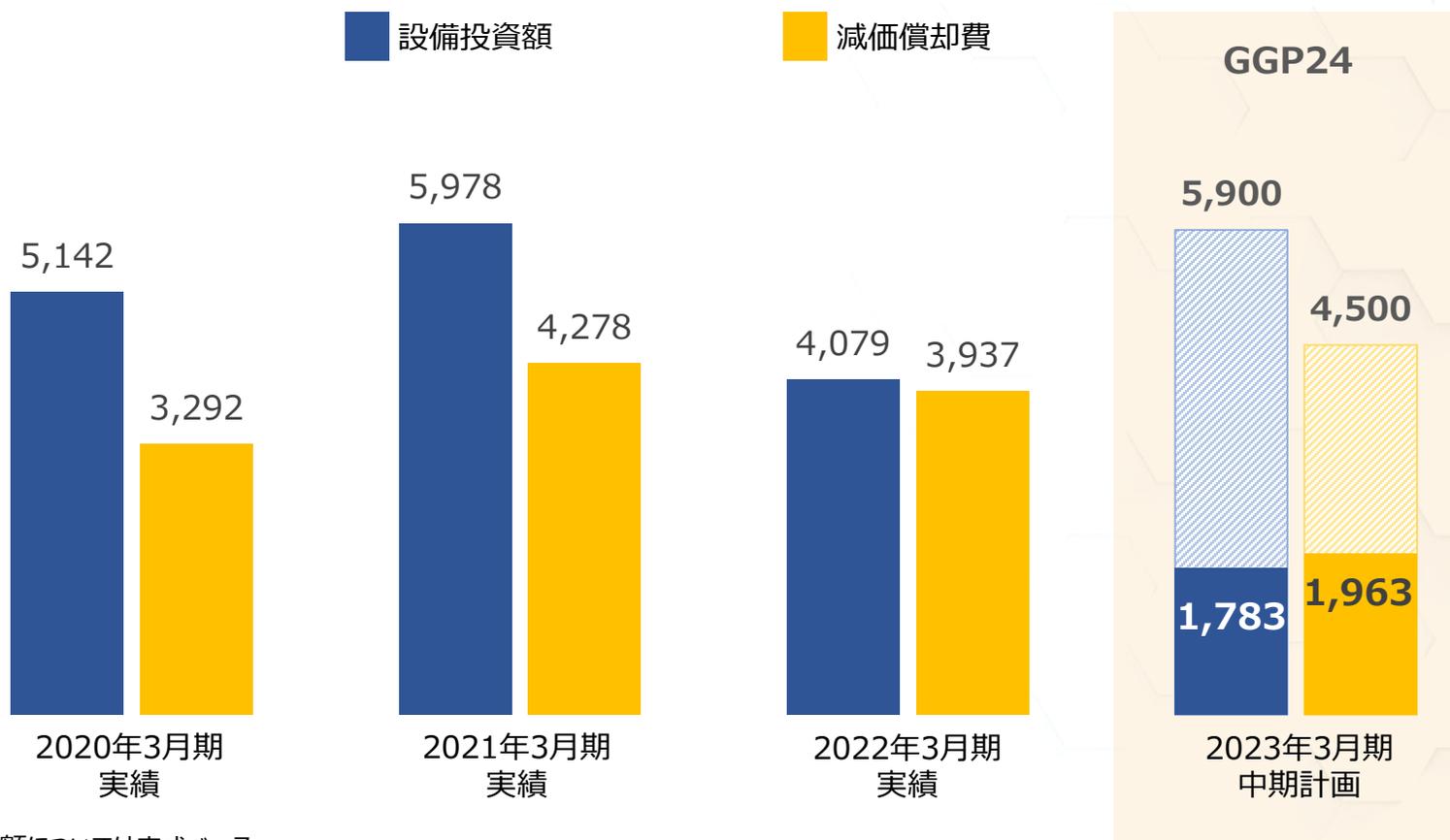
◆営業C/F	過去最高売上による税引前当期純利益増加により前年同期比+70百万円増加
◆投資C/F	継続的なサスペンション事業への設備投資、及びアイメス社への資本参加により前年同期比▲308百万円減少
◆財務C/F	短期借入金の減少、及び今期自己株式取得未実施により前年同期比+204百万円増加

単位：百万円	2022年3月期第2四半期		2023年3月期第2四半期	
	実績		実績	増減
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,143</b>		<b>2,213</b>	<b>+70</b>
税引前当期純利益	640		897	+256
減価償却費	1,853		1,963	+109
売上債権増減	▲253		▲907	▲653
棚卸資産増減	▲713		▲881	▲167
仕入債務増減	458		1,123	665
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>▲2,868</b>		<b>▲3,176</b>	<b>▲308</b>
固定資産取得による支出	▲2,816		▲1,392	+1,424
投資有価証券取得による支出	0		▲1,719	▲1,719
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>▲474</b>		<b>▲270</b>	<b>+204</b>
短期借入金増減	996		337	▲659
長期借入金増減	▲415		▲274	+141
自己株式の取得	▲704		▲0	+704
配当金支払	▲351		▲333	+17

◆HDD用サスペンションを中心に継続した設備投資を実施

## 設備投資額・減価償却費

(百万円)



※上記設備投資額については完成ベース

# 2023年3月期 業績見通し

## 8月5日公表予想を据え置き

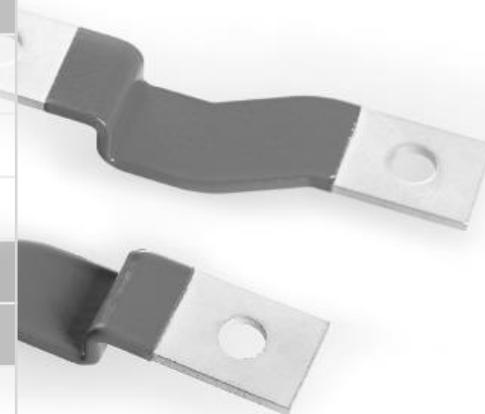
◆ 通期売上高	為替影響+4,431百万円を除くと8/5公表値対比▲7.8% HDD用サスペンションにおいて景気後退の懸念から下期売上高減少が見込まれるものの 既存自動車関連で下期から一定の回復を見込む
◆ 営業利益	自動車分野における鋼材価格高騰分及びその他コストアップ分の価格転嫁による収益力改善 HDD用サスペンションの新機種生産性改善およびEV等電動化関連製品の伸長による増益

単位：百万円	2022年 3月期	2023年3月期									
	実績	前回予想(8月5日公表)			実績	見通し			対前年 通期比	対前回予想比	
		通期	上期	下期		通期	上期	下期		通期	上期実績
売上高	47,438	27,700	29,300	57,000	<b>26,813</b>	<b>30,187</b>	<b>57,000</b>	+20.1%	▲3.2%	+5.2%	
営業利益	649	600	1,400	2,000	<b>471</b>	<b>1,529</b>	<b>2,000</b>	+208.2%	▲21.5%	+9.2%	
経常利益	1,022	700	1,400	2,100	<b>882</b>	<b>1,218</b>	<b>2,100</b>	+105.5%	+26.0%	▲13.0%	
当期純利益	904	450	1,050	1,500	<b>572</b>	<b>928</b>	<b>1,500</b>	+65.9%	+27.1%	▲11.6%	
一株当たり利益	29.34円	15.00円	34.96円	49.96円	<b>19.05</b>	<b>30.91</b>	<b>49.96</b>				
平均為替レート	109.8円/ドル	129.8円/ドル	125.0円/ドル	127.4円/ドル	<b>134.0円/ドル</b>	<b>140.0円/ドル</b>	<b>137.0円/ドル</b>				
	130.9円/1-円	135.1円/1-円	132.0円/1-円	133.6円/1-円	<b>138.7円/1-円</b>	<b>135.0円/1-円</b>	<b>136.9円/1-円</b>				

## ◆ 対前年比較

<b>EV等電動化関連事業</b>	バスバー、LED関連製品、電流センサー等、電動化関連製品の伸長により前年比増加見込み
<b>電子情報通信関連事業</b>	今後景気後退懸念によるデータセンター向け投資抑制の可能性あるものの、データセンター投資増により対前年同期比増加見込み
<b>既存自動車関連事業</b>	為替影響及び鋼材価格転嫁により前年比売上増加となるが、前年の新型コロナウイルス感染影響および自動車生産の減産影響からの回復は先送り

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期			
	実績	前回予想 (8月5日公表)	通期予想	対前年実績比	対前回予想比
<b>売上高</b>	47,438	57,000	<b>57,000</b>	+9,562	-
<b>EV等電動化関連事業</b>	2,036	3,470	<b>3,290</b>	+1,254	▲180
<b>電子情報通信関連事業</b>	16,660	22,230	<b>21,560</b>	+4,900	▲670
HDD用 サスペンション	10,948	16,380	<b>14,820</b>	+3,872	▲1,560
プリンター関連	3,694	3,900	<b>4,250</b>	+556	+350
通信関連	1,228	1,290	<b>1,740</b>	+512	+450
その他	789	660	<b>750</b>	▲39	+90
<b>既存自動車関連事業</b>	28,741	31,300	<b>32,150</b>	+3,409	+850
材料関連	6,447	6,750	<b>7,410</b>	+963	+660
自動車関連	22,294	24,550	<b>24,740</b>	+2,446	+190

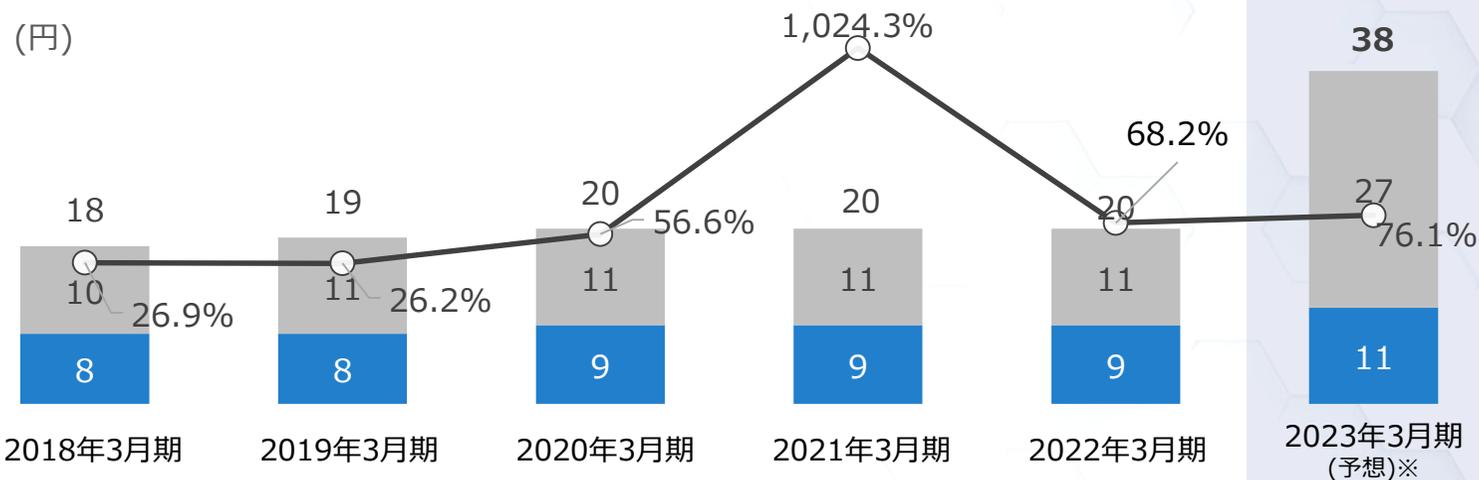


## ◆ 2023年3月期

資本収益性とBSマネジメントを推進すべく、  
自己資本の積み増しを抑制するための積極的な株主還元を実施

### 配当方針

➤ **ROE9.0%を超過するまで配当性向を75%とする**（配当下限は20円を継続）



中間配当	8円	8円	9円	9円	9円	<b>11円</b>
期末配当	10円	11円	11円	11円	11円	<b>27円</b>
年間配当合計	18円	19円	20円	20円	20円	<b>38円</b>

※今後業績予想が修正される場合、配当方針に基づき修正されることとなります。

# 中長期の成長戦略



## 2030年の事業ポートフォリオ確立に向けた実効的な戦略の加速

### 事業戦略

#### EV等電動化関連成長事業

－グローバルに売上拡大・次世代主力事業へ－

- ・ 電動車ニーズに応えるべく「バスバー」、「シャントバスバー」の量産拡大
- ・ EV等電動化製品の欧州・中国・米国での拡販の展開

#### 電子情報通信関連成長事業

－飛躍的成長の実現・利益成長の追求－

- ・ 顧客需要への対応に向けた設備投資継続と生産効率向上
- ・ 大容量ハードディスクドライブの需要に応えるべくサスペンションの生産能力強化
- ・ 通信関連/プリンター関連は製品開発、工法改善を通じ、生産効率を向上させる

#### 自動車関連既存事業

－産業構造の変化に対応・収益力改善－

- ・ 製品別に市場成長性と収益性を検証
- ・ 徹底的な製品別収支管理により、既存案件の収益力改善に注力
- ・ 生産・営業拠点の最適化を検討

### 資本戦略

## 最適な資本構成を意識したBSマネジメントの推進

- ・ ROE9%を超過するまでは配当性向75%を維持し、自己資本の積み増しを抑制
- ・ 資本コストを意識した投資判断の徹底

GGP24定量目標

売上高

630億円

営業利益率

7.1%

ROE

9.0%

## 中計GGP24との比較と今後の見通し

全体として為替影響と鋼材価格転嫁により、売上高・営業利益達成見通し。各事業の状況は以下の通り。

### ◆EV等電動化車関連事業

- ・ 電動車向けバスバーの国内自動車メーカーあたらに2社採用に加え、シャントバスバー量産開始他好調に推移。

⇒電流センサーは、従来のシャント方式に加え磁気式センサーの開発を終え、欧州・中国での拡販体制、国内での生産体制整備を進める。

### ◆電子情報通信関連事業

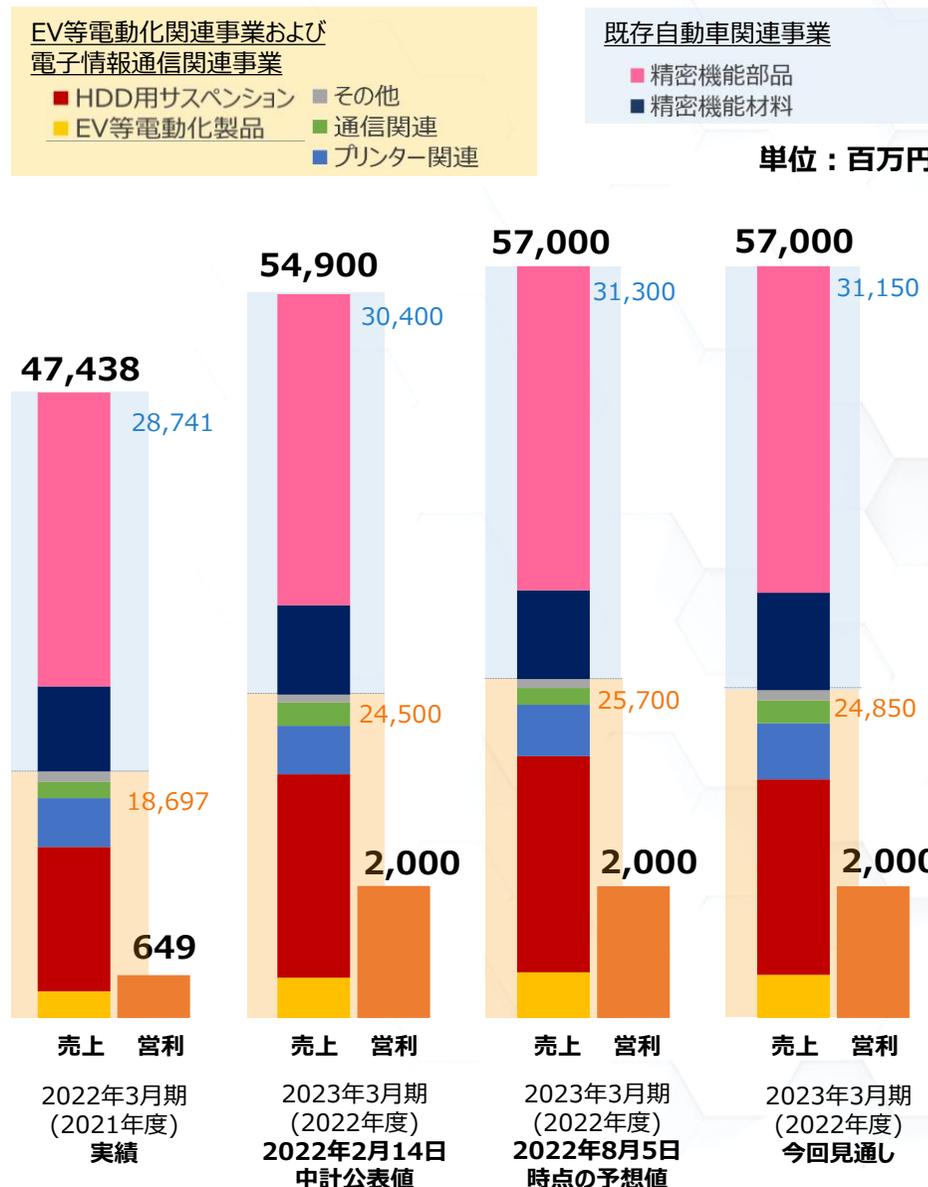
- ・ サスペンション事業は、米国を中心とした景気後退懸念により一時的に受注減発生。2023年度前半までは低調な推移予測だが、データセンター向けニアライン大容量ハードディスクドライブ(HDD)の高い需要は継続しており2024年度は回復見通し。

⇒資本業務提携した株式会社アイメスとの協業による生産性改善を強力に進める。※日本・フィリピン

### ◆自動車関連既存事業

- ・ 自動車生産の回復は低調。また鋼材価格やコストアップ分の転嫁遅れで利益を圧迫。

⇒鋼材価格高騰の価格転嫁推進し、合理化を進める。



# 「材料から製品までの一貫生産」守り続けた技術から 新たな領域を目指します。>>>>

溶接 曲げ



ダイス成型



圧延

精密塑性加工技術

■5G・IOT化により拡大する  
データ社会への対応

光通信事業事業  
HDD用サスペンション事業

■気候変動への対応

バスバー事業  
電流センサー事業  
車載LED事業  
竹炭サステナブル事業

■高齢化社会への貢献



リハビリロボット事業  
超音波センサ(開発)

# 5G・IOT化により拡大するデータ社会への対応 HDD用サスペンション事業



サンコール電子情報通信分野の柱。クラウドストレージ容量需要の大幅な伸びに対して、ニアライン向けHDDの需要は今後も増加。



P.IMES社

2022年8月

アイメス社との資本業務提携契約により 生産技術力の向上



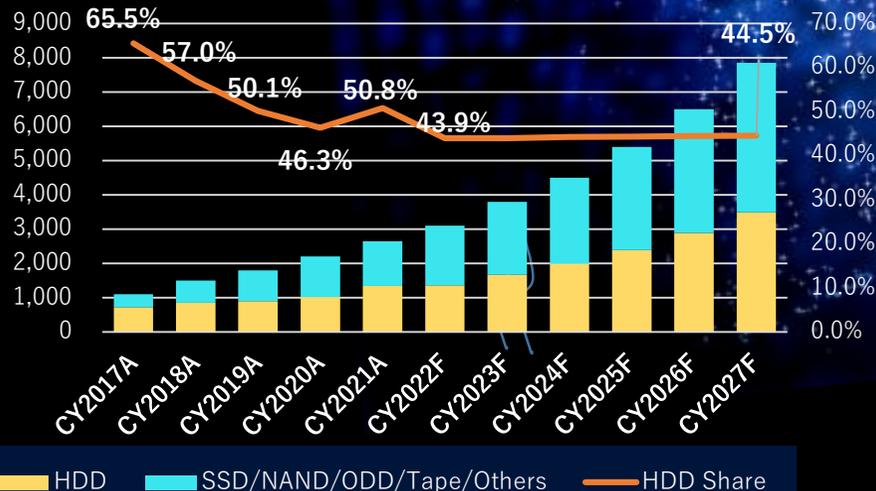
2021年度 売上109億円

生産能力を2021年度対比 **約2倍** に増強する計画

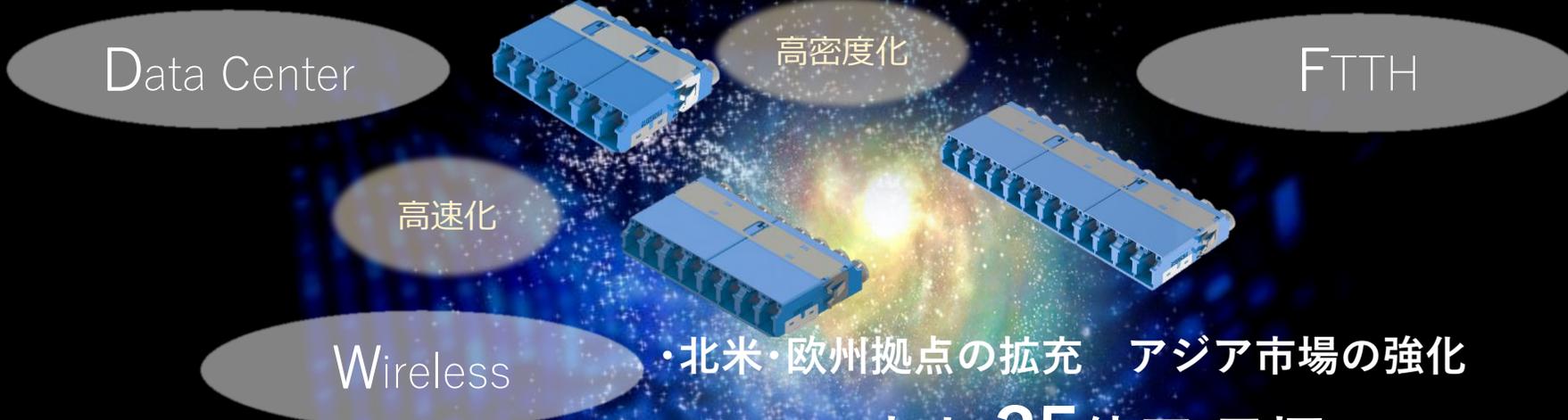
2022年度 売上 **148億円** 見込み

ニアラインドライブHDDの当社生産能力計画

データストレージの容量需要推移

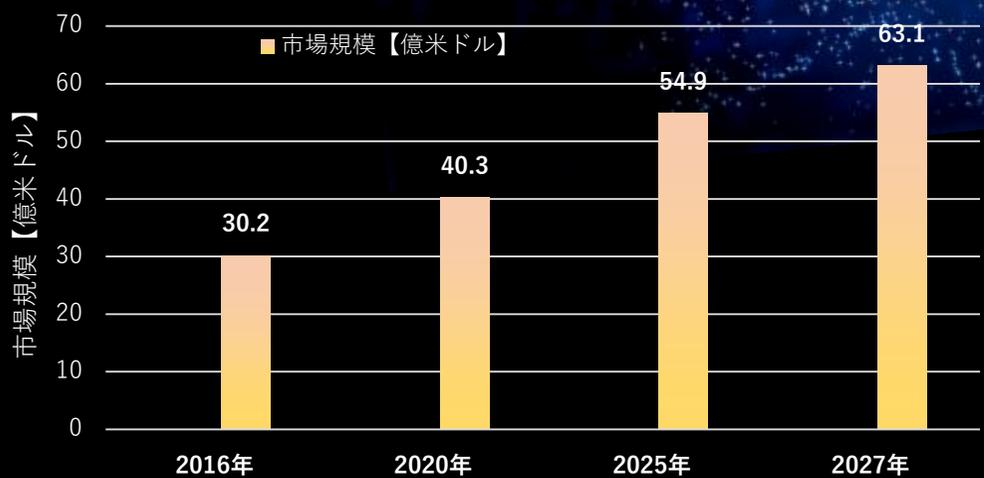


高密度化が求められる光通信ファイバー市場。

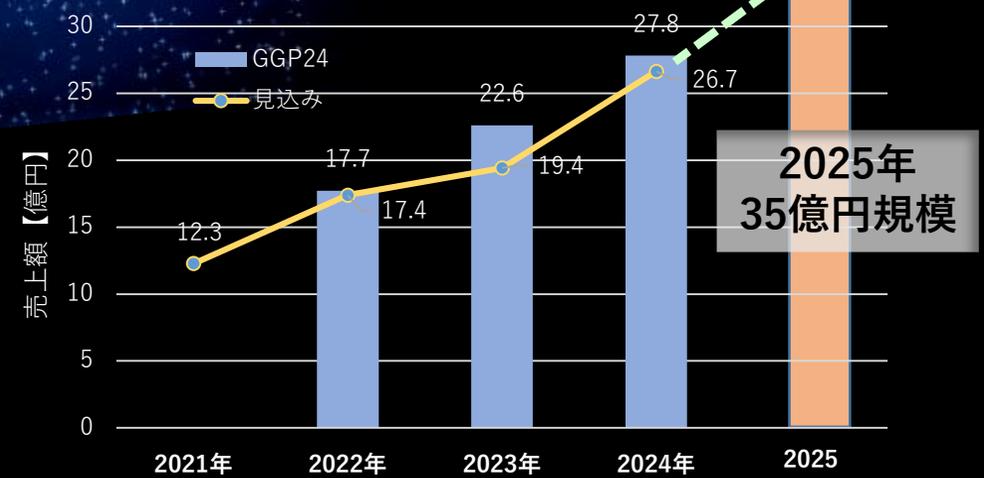


・北米・欧州拠点の拡充 アジア市場の強化  
・2025年度 売上 **35億円** 目標

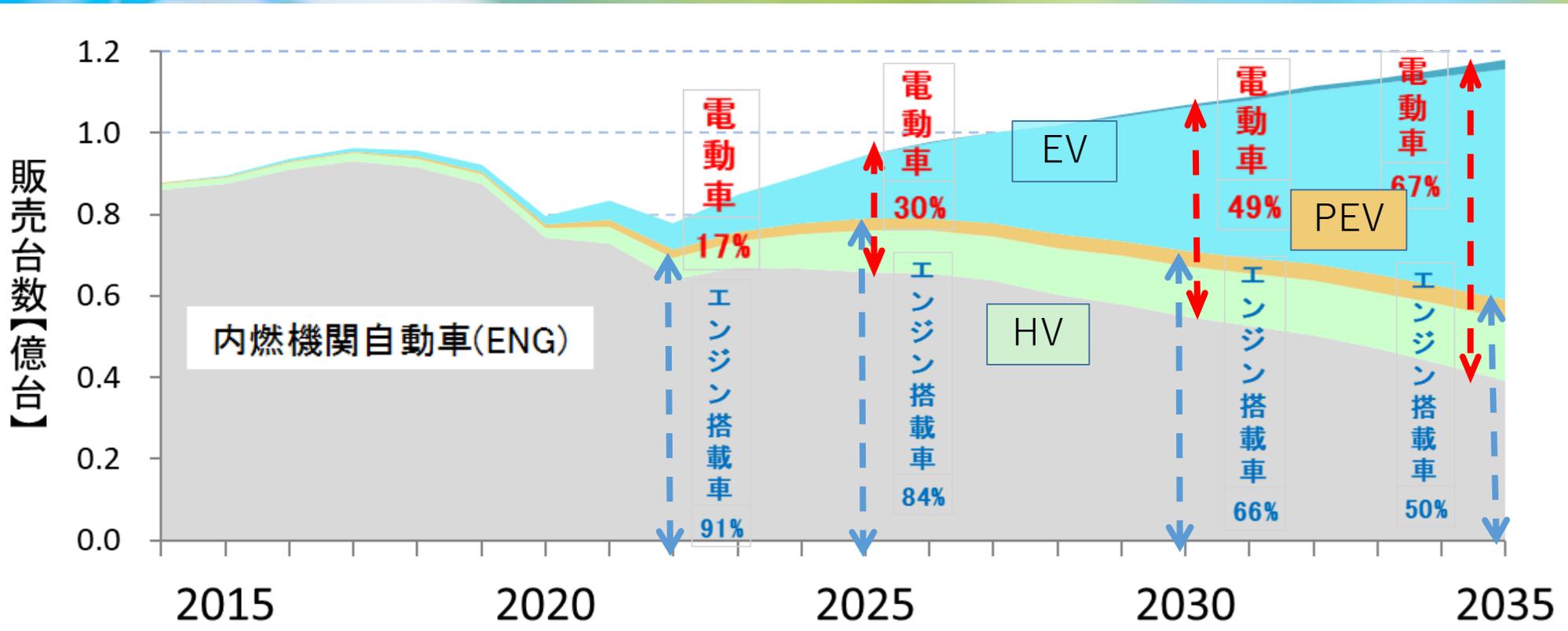
世界の光コネクタ市場予測



光通信コネクターGGP24比売上【億円】



# 2030年、EV化の世界に向けて

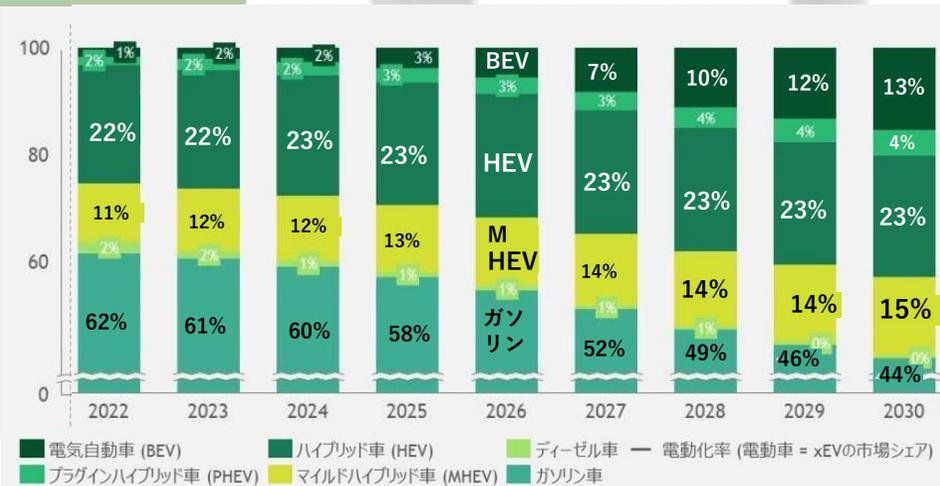


【Data Source : FOURIN & Marklines】

	2022年	2025年	2030年	2035年
電動車	FCV: 0%	FCV: 0%	FCV: 1%	FCV: 2%
	EV: 8%	EV: 16%	EV: 33%	EV: 48%
	PHV: 3%	PHV: 3%	PHV: 3%	PHV: 4%
	HV: 6%	HV: 11%	HV: 12%	HV: 13%
	ENG: 82%	ENG: 70%	ENG: 51%	ENG: 33%

2013年量産開始。国産ハイブリッド車を支えてきたEV事業の柱です。

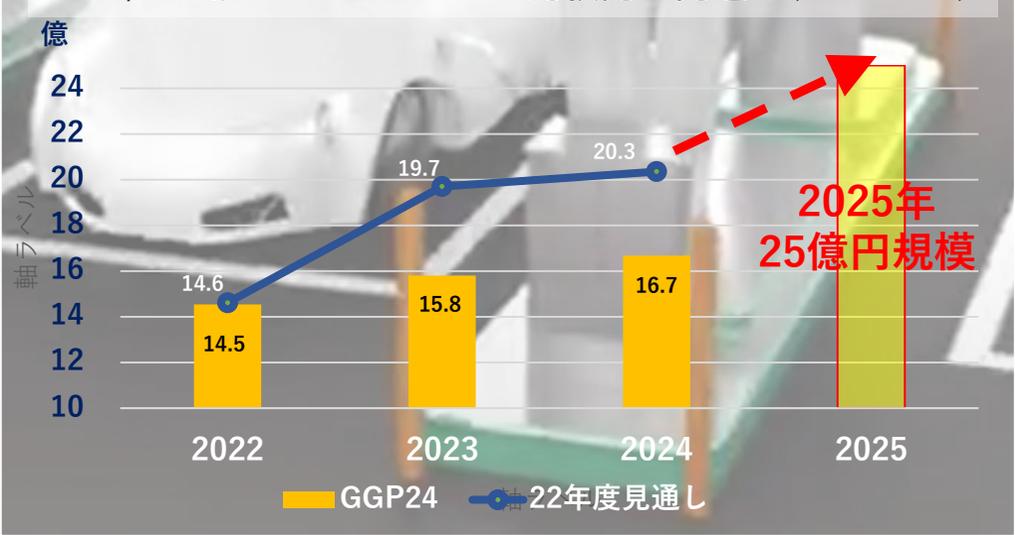
～2030年 国内新車販売台数の割合 (%)



日本ではハイブリッドは引き続きシェアを維持する

日本での新車販売台数における電動車の割合は、2025年までに40%を超え、2030年に55%となると見込んでいます。日本では、ハイブリッド車 (HEV) のシェアが2019年時点で既に22%を占めており、2030年でも23%と引き続きシェアを維持すると予測されています (世界では2030年に7%)

HEV/EV用BUSBAR GGP24比較売上見込み(2022-2024)



2022年度から国内自動車メーカー2社 (EV・HEV車) へ新規品 量産採用

欧州・米国・中国。電動化の進む海外EV車での採用で急加速。

Industrial

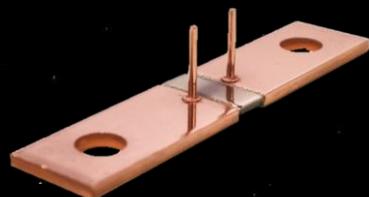
Energy

Battery Pack

EV

- 2014年 シャント方式センサー開発
- 2017年 国内向け電動フォークリフト採用
- 2017年 米国向けフォークリフト採用
- 2019年 NITE大型蓄電試験施設採用
- 2019年 国内向けHVTトラック採用
- 2020年 太陽光発電蓄電池システム採用
- 2020年 欧州向けAGV(自動搬送機) 採用
- 2021年 欧州EVレース車採用
- 2021年 北米EV乗用車採用
- 2022年 コネクタータイプ開発  
磁気式センサー開発

今年8月に新製品コネクタ付きシャントをリリース。シャント方式に加え、新たな方式である磁気式センサーを開発しました。



Shunt Busbar

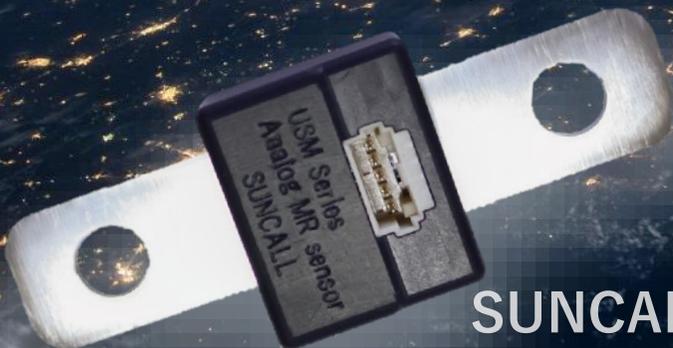


Shunt Sensor



Shunt Busbar Connector-type

2022年8月リリース。  
PCB(基盤)を直接搭載し精度UP。端子ピン  
いらずでワンタッチで接続できます。



SUNCALL Magnetic current Sensor

2022年12月リリース予定。

磁気方式にて非接触で大電流を検知できる画期的なセンサー。  
消費電力の少ないエコなセンシングを実現しました。

EV先進地域でのグローバル戦略の基盤を固めます。



2023年新拠点へライン増設  
生産能力1.8倍へ増強

中国

2020年 SGT(サンコール広州貿易会社)へ  
シャント販売会社の設置



さらなる能増ライン

※国内選定中



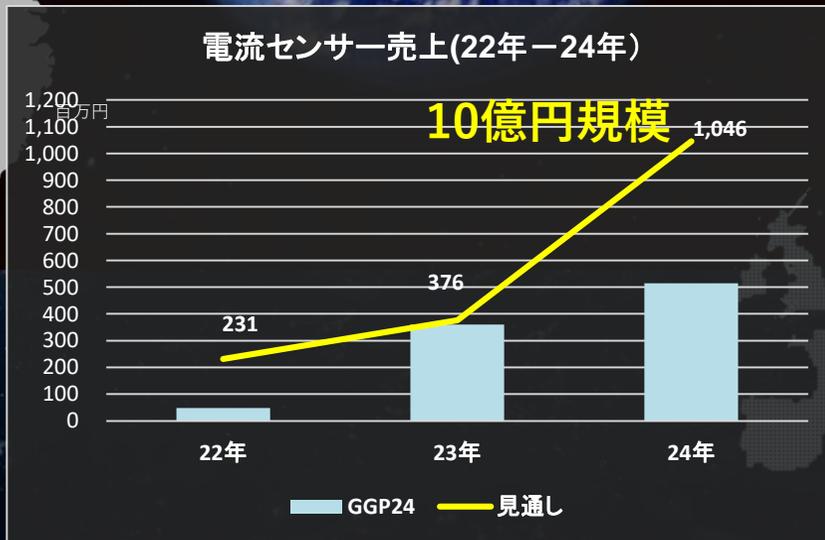
北米

9月 北米展示会  
2023年 営業事務所開設  
(構想中)

欧州

2022年  
6月 Battery show出展  
11月 Electronica show出展

2023年  
4月 ドイツへ販売会社  
Suncall Europe 設立予定



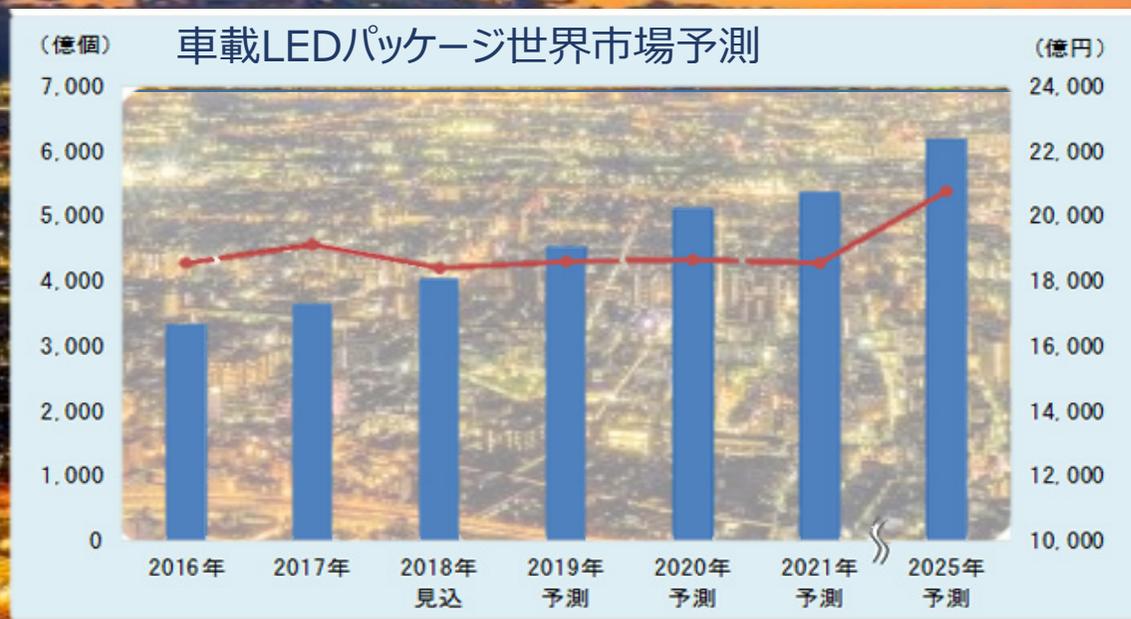
2021年から量産開始した新事業。LEDの小型・薄型化実現に寄与。

自動車分野におけるLEDは、近年急速に普及しており、すでに高級車や一般大衆車のみならず、新興市場向け車両でも採用が進みつつあります。



➤ 車載LED基板の量産化成功

➤ 2025年売上見込み 10億円



文科省COIプロジェクトのひとつとして、京都大学と共同研究開発した歩行学習支援ロボット。

2020年に介護機器モデルとして発売、  
2022年には無線タブレットタイプを新発売。

全国のリハビリテーション施設だけでなく、老人ホーム等介護施設で採用され、好評をいただいています。

装着イメージ



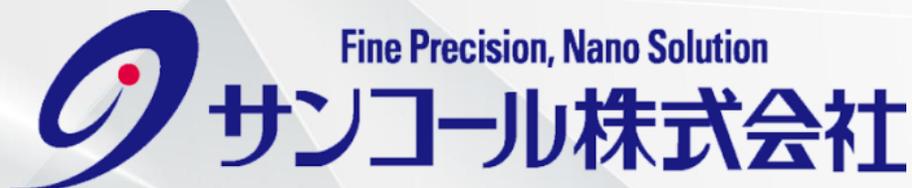
◇さらなるサービス展開を計画中。  
歩きたい、という願いを取りこぼさない。



オルソボットでのリハビリ風景  
(無線タブレットタイプ)

## 【ご注意】

本日の説明資料には、当社の事業に関する業績見通し、将来の計画・方針等に関する記述が含まれていますので、株券等の取引を行う際には、金融商品取引法その他の法令の遵守をお願い申し上げます。また、将来予想は、現時点で入手できる情報に基づき作成しており、既知または未知のリスク・不確実な要因等を含んでいるため、当社の実際の業績、事業活動や財政状態が、将来予想の内容と大きく異なる場合がありますが、そのような場合であっても当社は、将来予想の内容を更新または修正して公表・開示する責任を負うものではありません。



公式サイト・SNS等

[ホームページ](#)

[Twitter](#)

[YouTube](#)